

# 地域活性化という「遊び」⑩

京都市府 福知山市 「みわ・ダツシュ村」から

山本晋也

ないところにもこそあることのない  
ありがたみを感じる機会



↑床がない時代。子供達も工作し放題で楽しかったと思います  
→野外で調理していた頃



「まだやってるの？」  
「またやってるの？」  
とよく言われますが  
「まだやってます」  
「またやっています」  
移住以来地元では  
もはや我が家の名物になりつつある  
家の改装。  
技術の進歩で  
現代の農業に農閑期というのは  
なくなりつつありますが  
僕達が暮らすような中山間地では  
今頃になると  
草との戦いがない分  
時間や気分的にもなんとなく  
農閑期のような気持ちになるのです。  
そんな農閑期には  
薪まきやホダ木の調達を兼ねての  
裏山の整備という  
重要な仕事もありますが  
我が家ではこの農閑期の家の改装は  
とても大切な仕事です。

7年前に来た当初  
家のまわりは草だらけ。  
敷地には井戸があるだけで  
台所もなく  
壊れた窓にはとりあえず  
ブルーシートを張って  
家というより  
大きな木造のテントみたいな感じで  
庭で調理をしてそこにある水道で  
洗い物をしたりしていました。  
当時子供もまだ小さかったので  
彼らの辞書には  
不便という言葉は無く  
毎日がキャンプみたいだと大喜び。  
しかし冬になり洗ったお皿の水滴が  
凍ってしまったりすると  
さすがに家の中に  
水道が欲しくなりました。  
次の年  
井戸のポンプから水を引いてきて  
仮設の台所を作りました。

筆者プロフィール  
1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかたわらオーガニックレストランを経営するも食材を種から作ってみたいくなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダツシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダツシュ村副村長。



調理場をとりあえず屋内に移動。子供達は毎日火遊びができてとても楽しかったそうです



初めて家の中に水が来た！

「おー家の中に水が来た」と今ではあたりまえのことにみんなで感動。次の年  
家内が4度目の妊娠をし  
あまり体を冷やしてはいけないという  
ことで薪ボイラーを導入。

「すげー家の中でお湯が出る  
普通の家みたい」と大騒ぎ。  
また次の年  
手付かずだった2階の部屋も  
子供の成長とともに必要となり  
改装を始めましたが  
予算の都合で中断。  
湿気が多い山間の気候条件や  
子供の健康面を考慮すると  
どうしても床には  
無垢の板を使ったかったです。  
しかし偶然見つけたこだわりの  
木造注文建築の建築現場から  
ヒノキ無垢のフローリングの端材を  
いただけることになり  
それをパズルのように組み合わせ  
みごと憧れの無垢フローリングが  
完成。  
■  
なにごと効率優先の  
今の世の中において  
「あきらめが肝心」  
とよく使う言葉ですが  
僕達のなかでその言葉は  
「今のルートがダメならば さっさと見切りをつけて別のルートでアプローチせよ 目標を達成する方法はいくらでもある 方法はあきらめが肝心だが目標はあきらめないことが肝心」というふうに勝手に解釈しています。  
子供達も大きくなり



木っ端を張り合わせてフローリングに

勉強や趣味やスポーツ等それぞれにやりたいことも出て来ると  
面白がつてやっていた薪での風呂炊きもさすがにめんどうになってきたよう  
16年は薪専用だった風呂釜の故障を機に、近所の古民家解体でいただいて保管していた灯油と薪兼用のボイラーに変更しました。  
「わーボタン一つで追い炊きができる 灯油ってすごい」と  
またまた大騒ぎ。  
結局ガスや灯油をつかうのであれば、そんな回り道をしなくて最初からつかえばいいのにおもうかもしれませんがゼロから出発し  
その時の必要なものを  
自分達で考え知恵を出し合っ  
てより良い暮らしをつくりあげていく  
というのはとても楽しいことです。  
■



床もってお湯も使えるようになった現在の台所の台所

初めからすべて揃った便利な家でできるゲームも  
楽しいかもしれませんが  
子供達には自分の人生をだんだんと進化させていくという  
リアルなゲームの楽しみを知って欲しくて回り道をしてみました。  
テクノロジーの進化で  
今まで不可能とされていたことが  
どんどん可能になって便利になってゆくのはすばらしいことです  
いきすぎれば  
人間の理解のスピードが  
テクノロジーの進歩に追いつかず  
そのありがたみや  
人が生きるといふ意味が  
薄らいでいくような気がします。  
ないところにこそあることの  
ありがたみを感じる機会はおおいもので  
そんなところに移住してよかったと  
しみじみおもう今日この頃です。